

基礎看護学実習 I で学生が学んだ看護師の役割

清水暁美 荒井葉子

福山平成大学看護学部看護学科 〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸 117-1

The Role of Nurses as Learned by Students During Basic Nursing Process I

Akemi SHIMIZU Yoko ARAI

Department of Nursing, Faculty of Nursing, Fukuyama Heisei University
117-1 kamiwanari, Miyuki-Cyou, Fukuyama-City, (720-0001) Japan

要約

基礎看護学実習 I で看護師に同行し看護場面を見学した学生が、看護師の役割をどのように捉えたのかについて、実習終了後のレポート内容から明らかにした。その結果、①患者の安全を守る役割。②個別性を捉えた看護を実践する役割。③常によりよい看護を提供していく役割。④安心感を与える役割。⑤他職種との連携を図る役割。⑥組織の一員としての責務を果たす役割。以上 6 つの役割があると捉えていた。学生は、同行した看護師が実践する看護場面を見学することにより、ただ単に患者に看護を提供するだけではなく、病院組織の中での「看護師の役割」についても学んでいた。病院での看護師の仕事に対する姿勢や取り組みが、このような学生の学びに大きく影響している。

Abstract

The results of several post-training reports were analyzed in order to investigate how students who accompanied nurses and observed their nursing procedures perceived the roles of those nurses. From the result of that analysis, it became clear that the nurses were perceived to have the following six roles: (1) to protect the safety of the patients; (2) to implement nursing care perceived as individualized; (3) to constantly provide better nursing care; (4) to make patients feel safe; (5) to coordinate with other positions; and (6) to perform duties as part of an organization. Through observing the nursing procedures of the nurses they accompanied, the students learned that nurses do not only administer nursing care to the patients, but also learned about the “role of the nurse” within the hospital organization. The attitude and involvement within the hospital of the nurses in this study greatly influenced the learning of the students who accompanied them.

キーワード：基礎看護学実習 I 見学実習 看護師の役割

Key words : Basic nursing Practice I On-site practice Role of the nurse

諸 言

基礎看護学実習は、学習者である学生にとって重要であり、また意味深いものである。基礎看護学実習Ⅰという初回の実習で学生がもっとも興味関心を抱くことは、実際の医療現場で働く看護師の姿である。本学では、1年次終了時の3月に病院見学実習として基礎看護学実習Ⅰを実施し、看護師一人に学生1～2名が同行し看護の場面を見学するよう計画している。入学後1年間学内で学習したのち、初めて臨地で看護場面を見学する基礎看護学実習Ⅰは、学生の期待も大きい。病院の設備・機能、実践されている看護援助を見学することで看護を学ぶ動機付けにもなる。基礎看護学実習に関する先行研究においては、学生の学習内容や、看護師の態度に関するものがあるが、看護師の役割に関する研究は少ない^{1) - 4)}。

今回、病棟実習で看護師に学生が同行し、日常生活援助をはじめとする様々な看護の場面を見学することにより、どのような援助を患者に提供していたかということだけではなく、どのような役割を担って看護を実践していかなければならないのかを考える機会となった。そこで、学生が看護師に同行して捉えた看護師の役割を明らかにすることにより、今後の実習展開や実習指導方法の示唆を得ることができると考えた。

研究目的

看護実践の場面から学生が「看護師の役割」として捉えた内容を明らかにし、今後の実習をより効果的に行うための資料を得ること。

研究方法

1. 調査対象：A看護系大学生1年次生が実習終了後に提出したレポートのうち、研究者が担当した学生14名のレポートとした。
2. 分析方法：実習終了後のレポート内容をコード化し類似性のあるものを分類したのちコードごとにカテゴリー化した。その後カテゴリー間の関係性を見だし、「看護師の役割」として学んだことについて抽出した。

用語の定義

役割とは、看護師としての役目を表す。

倫理的配慮

本研究の主旨、個人が特定できないように配慮すること、成績には無関係であること、研究以外の目的で使用しないことを口頭で説明し同意を得た。

結果

実習終了後に提出された学生のレポートから259のコードを抽出し更に内容を検討した。その結果 1) 患者の安全を守る役割。 2) 個別性を捉えた看護を実践する役割。 3) 常によりよい看護を提供していく役割。 4) 安心感を与える役割。 5) 他職種との連携を図る役割。 6) 組織の一員としての責務を果たす役割。の6つのカテゴリーが明らかになった。

1) 患者の安全を守る役割として、看護師として、異常の早期発見につとめること、感染予防・医療事故の防止をはかること、医療者間での報告・連絡・相談・確認が重要であること、患者に安全な看護を提供していくことがあげられた。

表 1

サブカテゴリー	学生の記述内容
異常の早期発見	「変わったことはないかなどコミュニケーションから患者さんの体の異常をいち早く見つけることができる」 「処置を行った後も病室に向かい、点滴が正しくおちているかの確認を何度も行い、抗がん剤の点滴をしている患者さんは、点滴の落ちる量や速さによって副作用や患者さんの体の負担が変わるので特に注意を行っていた」
感染・医療事故防止	「患者さんのケアをする時には手袋をして、また一日に何度も手洗いをして感染予防にも気をつけていました」 「病室の掃除や通路の手すりなど患者のよく触る部分の殺菌・消毒。これは患者さんの身の回りの清潔を保つ意味だけではなく、感染予防という患者の身の回りから健康を保つ意味もありました」
医療者間で報告・連絡・相談及び確認	「看護師の仕事は、患者さんの生命にかかわることなので何をすることも確認していて、必要な時はダブルチェックもしていて、確認することが大切」 「点滴や輸血、食事など必ず確認されておられました。確認は一度きりではなく看護師同士でダブルチェックを行ったり、不安や疑問があれば他の看護師だけでなく医師などの医療従事者に相談されていて病院全体で連携をとっておられました」
患者に安全な看護を提供	「どんなに忙しい時でも患者を放置するのではなく、必ず安全な状態をつくること」

2) 個別性に応じた看護の提供としては、一人一人にあったケアの提供が必要であること、退院後の生活を考えた援助が必要であること、家族を含めた看護があげられた。

表 2

サブカテゴリー	学生の記述内容
一人一人にあったケアの提供	「患者というのは生きている人であり、物ではないので一人一人がそれぞれ違った考え方を持っているだろうし、性格も違ってくる。看護師はその一人一人に対応して看護を行っていかなければならない」 「患者さん一人一人のケアにも意味があり、疾患を把握し、それぞれ異なった援助が必要である」
退院後の生活を考えた援助	「看護師は患者さんのできることはさせるという日常生活への適応を援助し、早期に社会復帰できるように支援すること」

	「病院だけではなく自宅に帰って困らないようにすべてに手助けするのではなく、患者さんにできることは自分でしてもらうことも大切」
家族を含めた援助	「患者さんだけではなく、患者さんのご家族を含めて看護することも看護師の役割」 「患者さんだけではなくその家族を含めて不安を取り除く」

3) よりよい看護を提供していく役割としては、自らの知識を深めること、看護の質を向上するよう努めること、自己管理の必要性があげられた。

表 3

サブカテゴリー	学生の記述内容
自らの知識を深める	知識がなければ患者さんにとの様なケアが必要でどのように援助をして行くのかなど患者に不安を与えないためにも、知識がすごく必要」 「看護師は生涯勉強する必要がある」
看護の質を向上するよう努める	「もし自分が患者だったらどうしてほしいだろう、自分の看護が本当に患者に満足されているだろうかということ常を振り返ることが必要」
自己管理	「自分自身を感染から守るためマスクすることや、手袋、手洗いも大切な看護の役割」 「体調管理など自己管理も看護の大切な役割」

4) 対象者に安心感を与える役割としては、患者への十分な説明、笑顔で接する、気配りをする、ケアの工夫をする、信頼関係を築くことがあげられた。

表 4

サブカテゴリー	学生の記述内容
患者への十分な説明	「何をするにも患者さんにひとことかけていた」 「医師が説明したことをわかりやすく別の言葉で患者に説明していた」
笑顔で接する	「どんな時でも笑顔で患者と接し患者から信頼を得られるような看護師になれるようこれからの学習をがんばっていこうとおもいました」
気配り	「看護師さんはいつでも明るい対応と患者さんのためのさりげない気配りでした」 「患者さんに安心して入院生活を送ってもらおうと患者さんと接するときに態度や言葉遣いに気をつけてコミュニケーションをとっていました」
ケアの工夫	「処置やケアについては丁寧に行うと同時に患者さんの負担や疲労を最小限に抑えることが看護の役割でありそのためには迅速に

	<p>正確に行うことが必要」</p> <p>「どのようにしたら患者さんの苦痛が少しでも和らげることができるのかなどを考えながら行動することはとても大切なことだ」</p>
患者と信頼関係を築く	<p>「陰部洗浄やトイレ介助などは他人に見られるのが最も嫌がる行為なので、看護師の方にすべてを任せている患者と看護師の信頼関係がないとできないものだと感じました」</p>

5) 他職種との連携を図る役割としては、医療チーム間での情報を共有・協力をする事、そして各自がその役割を把握することがあげられた。

表 5

サブカテゴリー	学生の記述内容
医療チーム間で情報共有	<p>「担当の看護師さんだけが患者さんのことを知っていればよいというわけではなく、勤務している看護師さん全員が一人一人の患者さんのことを把握していました」</p> <p>「患者さんの一番身近におり、コミュニケーションを取りやすい医療従事者になるため看護の役割は多い」</p> <p>「他の医療従事者との連携にも深く関わるため患者さんの情報を細かく知り説明する役割」</p>
医療チーム間での協力	<p>「患者さんの一番近くにいるのは看護師さんだけれど、看護師さんだけでは患者さんのことをケアすることはできなくて、様々な医療従事者との連携があって一人の患者さんのケアが成り立っているのだとわかりました」</p>
各自の役割を把握する	<p>「看護師には看護師の役割、医師には医師の役割がある」</p>

6) 組織の一員としての責務を果たす役割では、看護師の行動が病院の評価につながる事があげられた。

表 6

サブカテゴリー	学生の記述内容
看護師の行動が病院評価につながる	<p>「患者を怒らせて不快な思いをさせてもいけないし、この病院に二度と入院したくないといったような気持ちにさせてはいけません」</p> <p>「看護の質を高めることは、病院の質を高めることにつながる」</p>

考 察

臨地実習は、学内で学んだことを実習で再確認し、さらに学内で学習を深めていくといった演繹的帰納的学習である。また、「看護師モデル」に出会い自己の将来像を描く場でもある。学生は入学後、学内で学ぶ看護に関する教科は少なく一般教養がほとんどである中、前期に学習した「基礎看護学」などで得た知識をもとに、看護師に同行し実践している看

護の場面を見学することにより、看護師としての役割は何であるかについて考え学んだ。

アメリカで子供向けに行う職業体験のプログラムの中に「ジョブシャドウイング」がある。半日程度企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事を観察するものである。この中で、学校での学習と仕事とのつながりを認識し、希望の職業に就くためにどのような教育やスキルを習得すればよいのか学ぶことができると言われている⁵⁾。日本でも、職業体験として教育に取り入れている学校も多い。初めての実習で、実際に行われている看護の場面を見ることにより学生は何もできない自分に気づき、自分が目指す看護職について考えるとともに看護師の一つ一つの行動に心を揺さぶられる。そして、今後どのような知識や技術を身につけていかないといけないのかを考える。今回の実習では、短期間の中で、清潔の援助、移動・移送、患者やその家族とのコミュニケーションの場面、ガーゼ交換、注射などの薬剤準備、薬剤師や理学療法士との確認場面、など様々な場面を見学していた。その中で学生は、看護を行っていく上で看護師としての役割には、患者の安全を守り、安心感を与え、一人一人にあった看護を提供し、さらに自己管理を怠らず常によりよい看護を提供していくことであるとともに、看護師一人一人の行動が、病院の評価にもつながり、病院組織において重要な役割を担っていると捉えていた。

2007年12月28日に出示された医政局通知によると、医師と看護師等の医療関係職との役割分担において、看護職者が①薬剤の投与量の調節②静脈注射および留置針によるルート確保③救急医療における診療の優先順位の決定④入院中の病棟内歩行や安静度の解除、歩行拡大、食事の変更、入浴や清拭に関する療養生活全般について現在の治療との関係に配慮しながら看護者が患者の状態をふまえて積極的に対応することができる、ことが示されている⁶⁾。学生の家族に医療職者がおり仕事内容を知っているものもいるが、中には看護師は患者の話聞き、生活のお世話をすればよいと考えているものもいる。医療の高度化・複雑化に伴う中、看護職者に求められる役割は重要である。看護を実践していく上で、看護師に求められる判断力や決断力、責任などについても学生には学び取ってほしいと考える。

実習終了後の学生は、「看護師になりたい」「看護師として働きたい」「この病院に就職したい」という気持ちを抱いていた。看護の場面でよい「看護モデル」に出会えることは、学生のモチベーションを高めることにつながり、学習内容も深まる。

今後は、学生が看護師を通して学んだことを生かしながら、実習施設との連携を図り、様々な職種から看護との連携に関する話を聴いたり、専門看護師や認定看護師から話を聴く機会を取り入れるなど、実習展開や指導方法を工夫していく必要がある。

結 論

1. 基礎看護学実習Ⅰで学生が「看護師の役割」として捉えたことは、1) 患者の安全を守る役割。2) 個別性を捉えた看護を実践する役割。3) 常によりよい看護を提供していく役割。4) 安心感を与える役割。5) 他職種との連携を図る役割。6) 組織の一員としての責務を果たす役割。の6項目であった。

2. 今後は、さらに実習施設と連携を図り、学生がより看護について考えられるよう実習内容を工夫していく。

尚、本研究の一部は、2008年看護学教育学会学術集会（筑波）にて発表した。

参考文献

- 1)石井俊行、清水暁美：看護大学生の基礎看護学実習 I における学び，第 36 回日本看護学会抄録集 看護教育，P.61，社団法人日本看護協会，2007.
- 2)清水暁美他：基礎看護学実習 I が学生に与えた影響，順正高等看護専門学校紀要，vol.10 No.1 P.27-33 ， 2002.
- 3)前川幸子他：基礎看護学実習において看護活動に同行した学生の学習内容，日本看護学教育学会誌，17 巻，学術集会講演集，P.119，2007.
- 4)鱒坂由紀他：学習モデルとしての「看護師の行動」についての検討 第 2 報，京都市立看護短期大学紀要，13 号， P.8-12， 2007.
- 5) <http://jinjibu.jp> 2008. 1. 12.
- 6)厚生労働省：医師および医療関係職と事務職員等との関係における役割分担の推進について，医政発第 1228001 号，2007.
- 7)宇佐見しおり：CNS が考える看護職の役割拡大，*インターナショナルナースレビュー*， Vol.32， No1 P.21-23， 日本看護協会出版会，2009.